

令和4年度 学校評価報告

草加市立稲荷小学校
(令和5年2月17日作成)

1 学校教育目標 自ら学び (自分の考えをもち、よりよく判断し、行動できる子) 心豊かに (互いのよさを認め合い、高め合える子) たくましく (心と体が健康で、笑顔と希望にあふれる子)	
2 重点目標・努力目標 ・児童一人一人の学力の向上と自己肯定感・自己有用感の醸成 ・一人ひとりを大切にする生徒指導の充実(いじめ撲滅、不登校0、生活規律の確立) ・健康・体力づくりの充実(体育授業の充実) ・落ち着いたある教育環境の整備充実(安心・安全な教育環境) ・地域に根ざした教育の推進(学校運営協議会の充実)	3 前年度の成果と課題 成果 ○学校ホームページの充実を図り、96%の保護者が「学校は積極的に情報発信をしている」と回答した。 課題 ●学力向上に関わる取組を全教職員で行い、共通理解・共通行動を徹底し、さらなる学力向上に取り組む。年度初めに、研修主任が計画的を提示し、教職員が見通しをもって活動を行えるようにしていく。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○校務分掌を見直すことで、各分掌が効率的に活動できるようになった。 ○校支援システムの回覧板を活用することで、打合せがなくなり、学級事務や教材研究に割ける時間が増えた。 ●校務分掌については、依然として一部の主任に負担が偏っている傾向がある。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○中学校と連携しながら、充実した研修を行うことができた。研究授業に向けてのブロック研修や学習ルール統一など、教職員が同じ方向を向いて研修に取り組むことができた。 ●各種学力・学習状況調査では、成果が見られる一方そうではない面もある。今年度までのよい取組を継続し児童の学力向上を図っていく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○今年度も、登校後の健康観察や定期的な手洗いの徹底を継続し、組織的な健康管理と感染防止に努めた。 ●交通安全や廊下歩行についての指導が不十分であり、具体的な対応策が必要である。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報の取り扱いについて共通理解を図り、個人情報の適切な管理・保護に努めた。 ●複数の視点で適切な施設管理を行う。

⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページを毎日更新し、子どもたちの学習の様子を紹介した。 ○感染症対策を十分に行った上で、学校公開や授業参観等、保護者が参観する機会を多く設けた。 ●地域人材の活用など、地域との連携には改善の余地がある。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3・4年度の小中を一貫した教育に関する研究では、中学校と連携しながら充実した研修を行うことができた。 ●新型コロナウイルス感染拡大の影響で、幼保との交流が十分に行えなくなってしまっていたので、次年度以降交流を充実させていく。

(様式1・小学校用②)

草加市立稲荷小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○行事や会議の精選を行い負担軽減に取り組むことができた。 ●学校評価における児童及び保護者の声を教職員で共有し、具体的な改善を進めていく。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究会など、日々の授業実践を見直す研修の機会があり、授業改善を進めることができた。また、研修を通して、学習に関するルールが整備され、児童に効果的な指導を行うことができた。 ●校内研修の更なる充実を図り、学力向上に努める。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業により、道徳教育についての理解を深めた。 ○教育活動全体を通して、道徳的実践力の育成を図った。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○専科教員とALTが連携し、児童が楽しみながら外国語を学習することができた。 ●中学校英語との円滑な接続を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的に活動する場を設定することで、望ましい人間関係の形成が図られた。 ●新型コロナウイルス感染症対策で実施できていない行事もあるので、次年度は感染拡大防止に留意しつつ、工夫して実施していく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の特色を生かし、他教科の学習とも関連させた学習活動を実施することができた。 ●年間指導計画を見直し、より児童や地域の実態に沿った課題を設定する。プログラミング学習を年間指導計画に位置付ける。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○共通理解・共通行動の視点に立った、組織的な生徒指導体制の確立を図った。 ●個別の支援が必要な児童への対応に支援員等がかかりきりになり、他の児童への学習面のサポートが十分にできなかった。

⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動（3）や総合的な学習の時間を用いて、取り組むことができた。 ●系統的なキャリア教育を推進するため、年間指導計画の見直しを行う。
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童への指導・支援について、全職員で対応する体制が整ってきている。 ●職員の共通理解・共通行動を推進し、校内支援体制をより充実させていく。
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策で実施されていなかった保護者による読み聞かせを再開した。 ○司書教諭を中心に、学校図書館や中央図書館サービスの活用を図った。
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業等で、ICT機器の積極的・有効的活用に努め、児童の学習意欲の向上に努めた。 ●タブレットの使い方に関する校内ルールを整備する必要がある。 ●タブレット活用のための校内研修等を充実させていく。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権週間の取組や道徳の授業を中心に、人権感覚を大切に授業作りを行うことができた。 ●各教科との関連をより意識した人権教育を推進する。

(様式1・小学校用③)

草加市立稲荷小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法の工夫と改善 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○草加市学力・学習状況調査では、対象の4学年中3学年で学力向上の成果が見られた。 ○校内研修で、算数マラソンなどの習熟のための取組や学習ルールの定着のための取組を充実させた。 ○校内研修において、「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を中心とした授業改善の取組を進めた。 ○研究発表会に向け、中学校との相互参観や合同研修会を行うことで、指導法の改善に努めた。 ●各種学力・学習状況調査では、成果が見られる一方そうではない面もある。
	②働き方改革を柱とした業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務削減 ・校務の精選 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○会議の時間短縮や削減、成績処理の時間確保等、教職員の意見を生かした業務改善の具体的な取組が行われた。 ●校務の精選を進めることはできたが、在校時間の削減は達成できなかった。
	③教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・心潤う教育環境の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初、特別教室や準備室を中心に整理整頓、清掃を行い、児童が活動しやすく、心潤う教育環境になっている。 ○老朽化した箇所や危険箇所の修繕を計画的に行った。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・学校ホームページを毎日更新したり、学校だより等で児童の様子を伝えたりしたことで、学校評価「学校は、学校だより、ホームページ、メール等で積極的に情報公開（発信）をしている。」の項目で、保護者の96%が当てはまると答えている。
- ・手洗い、マスクの着用、毎日の検温・健康観察を徹底し、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた。学校評価「学校は、子供たちの安全や健康に配慮している。」で、保護者の95%が当てはまると答えている。
- ・業務改善提案制度で募った職員の意見をもとに、職員会議の時間短縮や削減、行事の精選、成績処理の時間確保など、具体的な方策を行うことで業務改善を進めることができた。
- ・松江中学校区研究発表に向けて、小中相互の研究授業参観や合同研修会を行い、充実した幼保小中を一貫した教育の研修を行うことができた。また、校内においては、算数マラソンなど習熟のための取組や学習ルールの定着のための取組を充実させたり、「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を中心とした授業改善の取組を行ったりして、学力向上のための取組を行うことができた。
- ・草加市学力・学習状況調査では、調査対象の4学年のうち3学年において、学力向上の成果が見られた。
- ・学校関係者評価では、今年度も落ち着いて授業に取り組む児童の姿や、熱心な教員の指導も良いとの評価をいただいた。

6 次年度の改善策

- ・草加市教育委員会からの研究委嘱は終了となるが、校内研修で作りに上げてきた取組を稲荷小スタンダードとして次年度以降も確実に継続していく。
- ・スクラム事業の委嘱については、十分な成果が見られなかった面もある。今年度の反省を検証した上で、「教材研究の充実」「楽しく分かる授業の実践」を念頭に置いて取組を行っていく。
- ・家庭学習の定着のため、保護者に向けた「家庭学習の手引き」の周知徹底を図る。
- ・小中の連携は強化されたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により幼保との連携が十分に行えていない現状がある。幼保と十分な意見交換を行い、幼保小と保護者、それぞれに有益な一貫教育の取組が行えるようにしていく。
- ・地域人材の活用や地域の方との交流など、地域連携については課題がある。新型コロナウイルス感染拡大により十分に行えなかった地域の方との交流等を再構築していく。